

## こんにゃく新品種「みやままさり」の特性

### 1. 試験のねらい

本県で作付けされているこんにゃくの品種は、「あかぎおおだま」が60%程度で最も多い。「あかぎおおだま」は、収量性、耐病性に優れるが精粉歩留が低く取引価格が安いことと生子が棒状のため機械播きに適さないことが欠点である。そこで、それらの欠点を補う新品種「みやままさり」(平成14年群馬農試育成)の特性を検討する。

### 2. 試験方法

- (1) 試験場所：農業試験場本場畑(表層多腐植質黒ボク土 七本桜統)
- (2) 供試品種：「みやままさり」2年生  
                   「あかぎおおだま」2年生(対照)                  (1個植付重：約50g)
- (3) 栽植密度：8.3株/m<sup>2</sup>(60cm×20cm)
- (4) 耕種概要
  - 1) 土壌消毒：クロルピクリン剤3ℓ/a灌注後ビニール被覆  
植付時にリドミル粒剤溝施用
  - 2) 植付時期：5月下旬
  - 3) 施肥量：N1.2 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>1.2 K<sub>2</sub>O1.54kg/a(BB一発こん太くん779基肥施用)

### 3. 試験結果および考察

- (1) 出芽は、「あかぎおおだま」より7日、開葉は5日遅いが、成熟は「あかぎおおだま」より1日早い(表-1)。
- (2) 葉柄長は「あかぎおおだま」よりやや短く、葉身長はやや長い傾向である。葉色は「あかぎおおだま」と同程度である(表-1)。
- (3) 生育期の病害発生程度は「あかぎおおだま」並で、在来種で問題となる黄化症状(コンニャクモザイクウイルス)にも強い(表-1)。
- (4) 球茎重は「あかぎおおだま」よりやや多収で、球茎の病害発生程度は「あかぎおおだま」と同程度である。肥大倍率は「あかぎおおだま」よりやや高い(表-2)。
- (5) 生子重は球状生子のため「あかぎおおだま」より軽いが、生子数は多い(表-2)。
- (6) 精粉歩留は「あかぎおおだま」より高く、精粉収量も多い(表-2)。

これらのことから、「みやままさり」は「あかぎおおだま」と異なり球状生子のため生子植付の機械化が可能で、黄化症状にも「あかぎおおだま」並に強く肥大率が「あかぎおおだま」より高く、精粉歩留、精粉収量が「あかぎおおだま」より高い品種である。生子の数も多く、増殖率も高い。

### 4. 成果の要約

こんにゃくの新品種「みやままさり」は球状生子で機械化適性が高く、「あかぎおおだま」並の肥大性、葉枯病・黄化症状への耐病性を持ち、「あかぎおおだま」より精粉歩留が高い有望品種である。

(担当者 作物経営部 作物研究室 菊池清人)

表 - 1 生育特性

(平成14～15年平均)

品 種	出芽期	開葉期	葉柄長	葉身長	葉色	病害発生程度		成熟期
	月/日	月/日	cm	cm		葉枯	黄化	月/日
みやままさり	6/25	7/ 6	25.4	33.4	38.7	微	無	10/ 5
あかぎおおだま	6/18	7/ 1	27.0	32.0	37.6	微	無	10/ 6

注1) 植付重：あかぎおおだま51.9g/個、みやままさり51.1g/個

2) 葉身長、葉柄長、葉色(SPAD502)、病害発生程度は9月上旬頃調査

3) 病害発生程度は無～甚の6段階評価

表 - 2 収量および品質

(平成14～15年平均)

品 種	球茎重	病害発生程度		肥大率	生子重	生子数	生子1	荒粉	精粉歩留%		精粉収量
	kg/a	乾腐	根腐	倍	kg/a	個/株	個重g	歩留	対荒粉	対生	kg/a
みやままさり	199.1	微	微	4.33	41.4	5.6	8.9	20.2	70.9	14.3	28.4
あかぎおおだま	192.3	微	微	4.16	56.3	4.7	15.0	20.2	66.2	13.4	25.7

注1) 品質調査：供試1個重 あかぎおおだま 265g、みやままさり 274g



写真 - 1 「あかぎおおだま」と「みやままさり」の球茎と生子

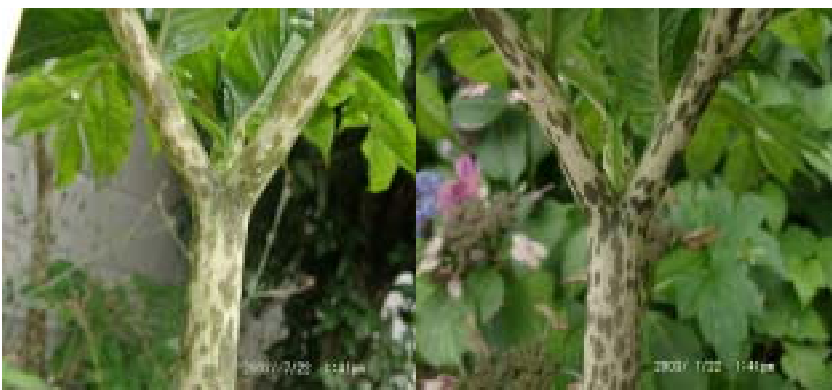


写真 - 2 「あかぎおおだま」(左)と「みやままさり」(右)の斑紋